令和８年度　第１回愛西市地域ケア推進会議　会議録（概要）

会議名称	愛西市地域ケア推進会議
開催日時	令和８年１０月９日（金）　午後２時００分から午後３時５０分
開催場所	愛西市文化会館３階第２会議室
出席委員	平澤秋子、三輪田篤、田中まさみ、山内嘉丈、堀田宗一、日高由紀、河村みつ枝、日比哲也、鷲野明美、辻裕子、栗畑由紀夫、青木弘光、日永正美
欠席委員	東元子
事 務 局	保険福祉部長 田口貴敏、保険福祉部参事 青井優、高齢福祉課長 八木久美子、高齢福祉課 猪飼隆善、城安代、古田恵子、山田里子、保険年金課 堀田紫津子、佐屋苑地域包括支援センター　水谷幸代、社協地域包括支援センター　渡辺秀和、社協佐織地域包括支援センター　中野重利
協議事項等	会議内容 （１）副委員長の選出 （２）「つながりがない高齢者」について （３）その他
公開/非公開の別	公開
非公開の理由	
傍 聴 人	なし
会議資料	・次第 ・愛西市地域ケア推進会議名簿 ・資料１　高齢者の状況～介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果から ・資料２　地域課題解決のための検討 ・参考資料　ごみ捨て支援　事前確認事項

審 議 経 過

発言者	内　容
事務局	・開会 ・傍聴人の報告 ・新規の委員報告
委員長	委員長あいさつ 議題（１）副委員長の選出 委員長より副委員長に栄畑由紀夫委員を指名 それでは、次第に基づき議事を進行します。 議題（２）「つながりがない高齢者」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	資料１「高齢者の状況～介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果から」について説明
委員長	ただいま、事務局より説明がありました。 ご意見、ご質問等はありますか。 （意見なし） 続きまして資料２について事務局より説明をお願いします。
事務局	資料２「地域課題解決のための検討」について説明
委員長	ただいま、事務局より説明がありました。 ご意見等ありますか。
委員	認知機能や精神機能を含む機能低下について、つながりがないと、本人が役割や生きがいを見つけにくいことから、うつ傾向等につながりやすいと感じます。また高齢者が悪質商法等の被害に遭ってしまうこともちろんですが、つながりがないことで、高齢者が犯罪に至る側になってしまうこともあると思います。
委員長	つながりがあり周囲の人に相談できれば解決していける問題が、つながりがないことで解決できずに、高齢者が犯罪に至ってしまうといったこともあり得るというご意見いただきました。他にはいかがでしょうか。
委員	経済的な問題、８０５０問題、認認介護、共倒れ等、他にも様々な問題にも波及していくと思います。社会的なことや行政のシステム上でも困ることがたくさんあると思います。
委員長	経済的な問題を抱えていても、例えば生活保護を受けられる状況だけれども本人がそのことに気づいていない場合や、行政等の利用できる支援があるにも関わらず本人が経済困窮に陥ったままであるといった状況が考えられます。また、認認介護などの問題を周りが気付かないままに、虐待等深刻化してしまうことも考えられます。本当につながりというものが非常に重要であると思います。 続きまして、この地域課題について、今後の解決策や必要な支援として、どん

	なことが考えられるかについて、事務局より説明をお願いします。
事務局	資料２「地域課題解決のための検討」解決策と必要な支援　について説明
委員長	質問があればお願いします。 （質問なし） では、「個人でできること」から、解決案と必要な支援についてのご意見をお願いします。
委員	付け加えるとすれば、緊急時の連絡先や主治医、内服薬等の情報をまとめたものがあると、誰かが気づいてくれた時にスムーズに支援者が動いてくれると思いました。
委員長	これについて既に愛西市で制度化されたものはありますか。
事務局	制度とまでは言えないですが、先日愛西市のホームページに A４用紙 1 枚程度に、自分のことや緊急連絡先、主治医などを書ける様式を掲載しました。
委員長	それは自分で持っているものですか。
事務局	冷蔵庫に貼るなどして、一人暮らしの方に何かがあった時に親族等に見ていただけるようにするものです。
委員長	自分のことをきちんとまとめておく。緊急のために自分で備えるといった意識を持つことはとても重要ですし、結果つながりを作ることにもと思います。他にご意見いかがですか。
委員	近所を歩く、趣味のクラブに参加する、パソコン教室に参加する等が良いと思います。教える側に生きがいができるのはもちろんのこと、習う側についても子や孫世代の人達とのつながりができます。市でもスマホ教室等の開催が２～３か所あるようです。無料で参加できるものならば参加しやすいと思います。一日一回は誰かに挨拶をすることも有効ですし、地域の集まりに参加して顔見知りの関係になれば、相談先等に速やかにつなぐことができると思います。 歩くことについて、歩くことでポイントが貯まりスーパーなどでポイントを利用できるという取り組みがスポーツジムや薬局で行われています。市でもそのような取り組みができると良いと思います。
委員長	歩いただけでポイントが貰えてそれを使えると、やりがい生きがい、介護予防や健康につながります。商工会や店舗と連携して PR することを考えていければいいのではないかといったご意見をいただきました。 他に何かご意見はありますか。
委員	自身が 20 年、30 年後にどうかという視点で考えると、男性高齢者が集まれる場所が少ないことについて、集まれる場所を提案していきたいと思います。
委員長	男女区別なくという考えもありますが、とりわけ男性は集まりに参加することに躊躇しがちであるということは言えると思います。ネーミングも含め気

	軽に参加できるような場を作れると良いと思います。
事務局	補足になりますが、ウォーキングについて、愛知県と共同のアプリで【あいち健康プラス】を運営しています。また、現在健康推進課において【愛西健康マイレージ】という取り組みも行っています。（以下説明）
委員長	とても良い取り組みですね。全体の周知はなされていると思いますが、高齢者には、例えば家庭訪問の際などに、やり方を見せながら周知していただけると良いと思います。
事務局	高齢者の実態把握には、毎年民生委員に７５歳以上の独居高齢者や高齢者世帯に家庭訪問を実施していますが、生活状況や緊急連絡先を把握しています。緊急時のために合鍵を預けている人もあり、台帳に記載しています。
委員長	個人情報保護法制定後に廃止になった自治体もある中で、愛西市は民生委員による家庭訪問が継続されており、素晴らしいことだと思います。鍵の登録制度については平成19年に市が孤立死ゼロのモデル事業を行った際に開始しましたが、民生委員の協力のもと、今も継続できていることは素晴らしいです。 続きまして、「地域でできること」についてご意見をお願いします。
委員	近所の人に挨拶をするように心がけたいと思います。挨拶をすることで近所の高齢者等と顔見知りになれば、助け合いにつながると思います。近所同士で声を掛け合えば情報共有もできて、防災や高齢者の状態把握にもつながることになると思います。
委員長	子供世代も含め挨拶をすることで、地域にどんな人がいるのかが把握でき、防犯をはじめ、救急車が来た時に気に掛けるようになる等、地域づくりにつながります。 先ほど個人でできることとしても挨拶を挙げていましたが、地域でできることとしても重要であると思いました。 他にご意見はいかがですか。
委員	つながりがない高齢者については、まず、地域の組織に入っていただけると良いと思います。これが現状は難しいのですが、何度も通って勧誘することで心を開いてもらえるかもしれませんので根気よく勧誘できれば良いと思います。老人クラブは清掃や見守り等、保全会は草刈りや植栽の管理、ラジオ体操やごみ拾い、協議体は挨拶運動や独居を対象にした「黄色い旗運動」を行っています。「黄色い旗運動」は元気なら日中黄色い旗を出してもらい、黄色い旗が出なかった場合には、あらかじめお願いをしてある近所の人から協議体に連絡をしてもらいます。このような地域の組織で、無理なくできることを継続していきたいと思います。
委員長	地域の組織に入っていただくために、何度か足を運んで勧誘し心を開いてもらう、根気よく諦めずに声を掛けていくという大事な心得を教えていただきました。そして「黄色い旗運動」については、高齢者が主体的に、元気です

	よと旗を出すというところが、支援されることには気が引けるけれど自分でやるならやりやすいという人もいると思いますので、すごく工夫された取り組みだと思います。 続いて生活支援コーディネーターのご意見を聞きたいと思います。
委員	生活支援コーディネーターとして考えることです。 骨折をしてごみ出しが困難になった高齢者についてケアマネジャーから戸別収集の申請がありました。高齢者の自宅から集積場までは２軒先の距離であり、近所づきあいも良いとのことでした。近所の人がゴミを出す時に声を掛けてもらう等すれば、本人によるごみ出しが今後も可能になるのでないかと感じました。また、もう一例として、隣に協力可能な家族がいるにもかかわらず、本人に認知症があるからとの理由で申請がなされたケースがあり、協力が可能な家族の助けを借りずに行政サービスを選択することが、議題であるつながりを失くしていくのではないかと感じました。
委員長	個別収集の申請については、選択肢としていろいろと検討していただいた結果のことだと思いますが、本人の状況を考える中で、ケアマネジャーが評価する状況と、コーディネーターが評価する状況では差異があることが現実としてあると感じました。 隣近所に親族がある状況や、近所の人たちの力を借りられる状況では、そういった力を借りていくことで、つながりの継続になるということも考えられます。反面、つながりがない人に関しては、行政サービスで対応していくことで新たなつながりができることになるのではないかとも考えます。 続いてもう一人、生活支援コーディネーターのご意見をお願いします。
委員	災害時の避難については自主防災会が避難支援を行うことになっていますが、民生委員の持つ情報や地域の総代が持つ情報等があり、担当課が違って情報の共有が難しい面があります。そういった縦割りを何とかできないかと思います。また、独居や生活困窮等困難を抱える高齢者の支援についても関係機関の情報のずれを少なくし問題解決につなげられれば良いと考えています。 無理なく続けられるつながりを作るというところで、生きがいや役割意識につながるサロンやボランティアはもっと無理なく参加できるように工夫していきたいと思います。
委員長	防災の観点や地域の困難を抱える高齢者の支援についての情報管理も個人情報保護の観点も守りながら、円滑に関係機関が共有して、必要な支援が行われると良いと思います。そして、つながりだけでなく、役割や生きがいづくりにもつながるボランティアやサロンのコーディネートにも力を入れていっていただけるというご意見をいただきました。
委員長	続いて「事業所の取り組みでできること」について意見をお願いします。
委員	モーニング仲間同士で、様子がおかしい人に対して、受診勧奨から付き添い

	送迎まで支援していただけたというケースがありました。地域の老人会に参加を促すこともちろん重要ですが、今送っている生活の中で啓発活動等を行っていくことも重要であると思います。喫茶店のような小さなコミュニティ間の情報共有が包括も含めて、連携ができる仕組みを作ることができたら良いと思います。
委員長	今あるコミュニティの中から気づき、必要な支援につなぐ意識や取り組みをより充実させていくことが重要であるという意見でした。
委員	つながりのない高齢者を考える上で、その要因について明確にする必要があると感じました。つながりがないのはつながれないのか、それともつながりたくないのかによってアプローチが変わると思います。老人クラブや協議体、保全会、民生委員といった既存の活動を強化していくことも１つ、新しいものを作ることをバックアップしていくことも、事業所や地域ができる取り組みだと思います。 もう一つ、ごみ出しのことですが、なぜできなくなったかということを、追及する必要があると思います。地域の人がそもそも協力したくないのか、地域の人が協力してくれなくなったのか、これまでやってくれていた家族がいなくなったのか。現状の背景にある要因を分析し、そこにアプローチする必要があると思います。
委員長	現状の背景にある要因にアプローチしていく重要性についてご意見をいただきました。
委員	資料の「つながられる場所に無理なく通い続けられるように足を確保する」という項目について、私の事業所の場合は小規模多機能型居宅介護の特性を生かして、利用者の足ではありませんが、時間を確保することを考えながらサービスを調整しています。通いサービスで午前に食事や入浴などを済ませ、午後は自宅で過ごせるようにする等、つながりの時間を確保しています。そうすることで独居の人が介護サービスを使うことで逆に孤立してしまうことがないように今後もサービス調整を続けられたら良いと思います。 事業所としては、送迎や訪問介護で自宅へ訪問する時に、隣近所の人と挨拶をする等顔なじみの関係を作ることを心がけています。過去にはそこから地域の困っている人の相談を受ける機会がありましたので、今後も大事にしていきたいと思います。
委員長	サービスを提供することで本人の交流が狭くなるのではなく、できるだけ本人の交流を大切にサービスを提供していただいていること、それから、送迎時等の挨拶を通じて、地域の状況を把握することにも取り組んでいることについてご意見いただきました。
委員	介護保険事業所は地域のセーフティネットの一員としての窓口だと思いますので、連携を取ってやっていきたいと思います。
委員長	続いて、「公的サービス化、制度化の検討が必要なこと」についてご意見をお

	願いします。
委員	つながりがない高齢者が情報不足になることについては、行政の支援が必要であると感じます。資料１で高齢者のスマートフォン所持率が増えてきていることがわかります。資料１で、情報を取得する際にホームページの活用率が低いのは、見にくいからなのか、使い方がわからないのかを分析すると良いと思います。高齢者が、どういったワードなら検索しやすいのかを検証してみる必要があると感じました。情報のキャッチの仕方ということについては、先ほどの意見のモーニング仲間のような、口コミが有効であるとも感じます。どういう団体に発信したら口コミが広がっていくのかということを検証することも大事だと思います。
委員長	他に意見はありますか。
委員	ボランティアセンターに最近傾聴の要望が多いです。市には、見守り訪問員による傾聴訪問の制度がありますが、事業の対象にならない人にも要望が多いと感じています。今、社会福祉協議会では独自に傾聴ボランティアを養成することを検討しています。市の見守り訪問事業の対象とならない人について、社会福祉協議会で対応できれば良いと考えています。
委員長	これで議題２の検討を終わります。今年度後半に行われる第２回推進会議においても同様に「つながりがない高齢者」について検討していきたいと思います。 つづきまして議題（３）について事務局よりお願いします。
事務局	参考資料　「ごみ捨て支援　事前確認事項」について説明
委員長	ごみ捨て支援について何か質問はありますか。 （意見なし） 議題については、すべて終了しました。皆さん貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。 進行を事務局に戻します。
事務局	第２回の地域ケア推進会議につきましては、２月頃を予定しております。 長時間に渡り、ご意見等いただきましてありがとうございました。 以上をもちまして本日の会議を終了いたします。